

朝倉・信長・一向一揆を 敵に回し、乱世に散った 富田長繁

鯖 江市長泉寺町を抜ける旧北陸
道の西側、「歯塚大権現」と
呼ばれる小さなお堂の傍らに、一向
一揆との争いに敗れて討死した富
田長繁（長秀）の墓碑（鯖江市指定
文化財）があります。長繁の生きた
時代、越前は朝倉氏が治めていまし
たが、浄土真宗の本願寺派と三門徒
派の対立が激化し、また、天下統一
を目標む織田信長の越前侵攻も迫
り、不穏な様相を呈していました。



富田長繁墓碑

長繁は当初、朝倉義景に仕える武
将でしたが、織田軍による越前侵攻
が始まると、朝倉氏に反旗をひるが
えて信長に寝返ります。天正元
（1573）年に朝倉氏が滅亡した
後、長繁は府中領主に任じられて龍
門寺城に居住し、伊勢長島の一向一
揆の戦いなどで功名を挙げました
が、同じく朝倉氏旧臣でありながら
越前国守護代に任じられた桂田長俊
との処遇の差に不満を持ち、対立を
深めていきます。

その後、長繁は長俊の苛政に苦し
む百姓を煽動して土二揆を起し、
ついには長俊が居住する一乗谷を攻
め落とすことに成功します。しかし、
長繁は次第に一向一揆とも対立し、一
揆衆は加賀一向宗と結びついて越前



長泉寺 36 坊のうち唯一現存する中道院

一向一揆に発展しました。天正2
（1574）年2月、長繁は一向一
揆と対立する浄土真宗三門徒派を味
方に付け、長泉寺周辺で激突します。
しかし、休む間もなく無理な戦を仕
掛ける長繁に対し不満を抱く者が出
始め、ついには味方に後方から鉄砲
で撃たれ、24歳の若さで生涯を閉じ
たのです。

長繁の御霊は、中道院の秀運法印
によって弔われました。一方で、進
撃を続ける一向一揆は、朝倉氏旧臣
の武士を滅ぼし、神社仏閣や三門徒
寺院を焼き、他派の寺院に改宗を
迫って越前を制圧しました。

信長の越前侵攻と一向一揆の攻撃
により、長泉寺のほとんどの坊舎は

焼亡し、多くの僧侶や住民たちは離
散しましたが、村人たちは焼け残っ
た仏書・経典を集めて土中に埋め、
経塚を作って納めました。江戸時代
初期の慶安年間に、歯痛に悩む村人
がこの経塚に箸を供え回復を祈願し
たところ、歯痛が治るといふ不思議
が起こります。この神妙に感じ入っ
た村人たちは、この歯（箸）塚に小
堂を建てて「歯塚大権現」と称し、
現在に至るまで大切に守られていま
す。そして、いつしかこのお堂の傍
らには、長繁の墓碑が建立され、戦
乱の世を偲ぶ目印となったのです。

関連史料・ゆかりの地

無病息災を祈る・
すりばちやいと
(中道院)



すりばちやいと

今も地名に名が残る長泉寺は 36 坊に七堂伽藍を有した大寺
院でした。戦国期は多くの僧兵が居住しましたが、戦火で灰燼
に帰しました。現在は中道院のみが残り、毎年2月20日と3
月2日に元三大師堂で「すりばちやいと」が行われます。

【住所】鯖江市長泉寺町2丁目7-7（福井鉄道西山公園駅から徒歩7分）

参考資料等

『鯖江郷土史』大和学芸図書株式会社
河野通廣『改訂増補 探古 長泉寺三十六坊の歴史：付、中道院文書の影印・翻刻』

執筆・協力

鯖江市教育委員会文化課